

令和5年度第12回 感染症発生動向調査協議会
議事要旨

1 日 時 令和6年3月27日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 応接室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)
事務局 : 八代 英彦(感染症対策推進課 管理監)
可知 正行(感染症対策推進課 主任技師)
野池 真奈美(保健環境研究所 所長)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:大西委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項
- (4) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○県内での麻しん患者の発生報告について
(事務局から)

- ・2月下旬以降、国内で10名程度の麻しん患者報告があり、そのうち1名が岐阜県在住の方でした。感染したのは中東方面からの飛行機内と考えられ(発症状態の乗客がいたため)、その後疫学調査を行うなど、他の自治体とも情報共有して、国内での感染拡大の有無について調査を行っています。

(委員から)

- ・中東方面からの飛行機内で感染したとのことですが、渡航前にワクチンを接種していれば予防できていた可能性は高いと思います。海外には麻しんへの感染リスクが高い地域もあるため、渡航前の予防接種の重要性は以前から言われています。ここで改めてそのことについて注意喚起や啓発をした方が良いかと思います。